

環境報告書（2024年度のまとめ）

株式会社 カネテツ

内容

1. 運用管理

[1]～[4]：2024年四半期ごとの状況：1～4

- (1) 電力使用量
- (2) 重機燃料比
- (3) 輸送燃料比
- (4) グリーン購入
- (5) 入荷・出荷・在庫状況
- (6) 用紙の使用

- 2. 太陽光発電について : 5～6
- 3. 省資源、省エネルギーへの取組み : 7
- 4. リサイクル率の推移 : 8
- 5. 騒音関係、清掃活動など : 9
- 6. LCA : 10～13
- 7. CO₂削減の目標と計画 : 14
- 8. カーボンフリー電力の使用 : 15～16

2024 年 運用管理の進捗状況 (1) (2024/1 月 — 2024/3 月)

1. 電力使用量

1 月～3 月の月間電力使用量は 13,733 kwh ～ 14,885 kwh で、平均すると 14,123kwh であり、昨年度 1 年間実績平均の 14,416kwh から若干減少している。3 年来のコロナ問題も解消しているが、入荷／出荷は全体として、前年平均より大きく減少している。月間変動もあり、出荷量は 1 月～3 月について、前年比 2,096t → 1,926t と Δ8%の減少である。処理量の最大は 3,000t であり、この 3 か月は 6 割強の業務量となっている。電力の年間平均原単位は昨年の 6.879→ 7.333kwh/t (出荷量) と若干悪くなっている。

2. 重機燃料比

出荷量平均は、前年の 2,096t に比べて (1 月～3 月) 1,926t と Δ8% 減少している。場内作業重機の燃料比は 1 月～3 月で前年の 2.243 → 2.270 L/t (出荷量) と若干悪化している。入荷／出荷ともに変動が大きい傾向は収まりつつあり、処理量の減少、燃料供給先の変更などの変動要因も収まっている。また、燃料使用量は給油のタイミング、請求のタイミングで数値に変動がでている。場内作業の効率化の問題もあり、今後も作業量が減少の予想で、効率的な作業が望まれる。

3. 輸送燃料比

輸送燃料比は 1 月～3 月が 3.106 L/t で、昨年の 2.598L/t に比べて悪化している。外部委託の変動と、遠方の顧客への輸送の変化などが影響している。ただ給油のタイミングなどの変動もあり、もう少し長期的な評価が必要と思われる。実績はよくないが、全体として着実な状況である。

4. グリーン購入

1 月～3 月におけるグリーン購入の比率は 62.25 % と目標の 50%を越えている。昨年は年間で 63.35%であった。グリーン購入は定着しているが、購入金額が少ないために変動が大きい。購入品目は事務用品が主体であるが、購入金額は月額 1.5 万円程度であり、月間で 60%強 の比率で推移している。環境配慮の考え方は引き続き、購買面で確実に定着している。

5. 入荷・出荷・在庫状況

1 月～3 月の入荷量は 1,713 t/月で、昨年実績の 1,903 t/月を大きく下回っている。一方、出荷量は、1 月～3 月平均で 1,926 t/月 (昨年: 2,096 t) となっている。大幅に、在庫を減らして出荷する形 (数字上は) となっている。今年は全体として、入荷も出荷も昨年より 10%くらいの減少である。処理量のレベルは最大時 (3,000t/月) に比べると 65%位の操業状況にある。置場の整理が進み、置場の整理は安全作業にもつながるが、入荷／出荷が例年と同様に、数字的にはバランスしていない。

6. 用紙の使用

用紙の使用状況は、1 月～3 月では 5,666 枚/月で、昨年実績平均 (5,667 枚) とほぼ同様である。A 4 の使用が増加しており、入出荷の減少とはつながっていない。今年度は B 5 / B 4 の使用はない。

2024年 運用管理の進捗状況（2）

（2024/4月 — 2024/6月）

1. 電力使用量

4月～6月の月間電力使用量は13,277kwh～14,035kwhで、平均すると13,573kwhであり、昨年度1年間実績平均の14,416kwhから減少している。3年来のコロナ問題もなくなっているが、入荷／出荷は全体として、前年平均より大きく減少している。月間変動もあり、出荷量は4月～6月について、前年比2,096t→1,890tと△10%の減少である。当社の設備処理量の最大は3,000tであり、この3か月は6割強の業務量となっている。電力の年間平均原単位は昨年の6.879→7.433kwh/t（出荷量）[1月～6月]と若干悪くなっている。

2. 重機燃料比

出荷量平均は、前年の2,096tに比べて（1月～6月）1,908tと△9%減少している。場内作業重機の燃料比は1月～6月で前年の2.243→2.336L/t（出荷量）と若干悪化している。入荷／出荷ともに変動が大きい傾向は収まりつつあり、処理量の減少、燃料供給先の変更などの変動要因も収まっている。また、燃料使用量は給油のタイミング、請求のタイミングで数値に変動がでている。場内作業の効率化の問題もあり、今後も作業量が減少の予想で、効率的な作業が望ましい。

3. 輸送燃料比

輸送燃料比は1月～6月が2.937L/tで、昨年の2.598L/tに比べて悪化している。外部委託の変動と、遠方の顧客への輸送の変化などが影響している。ただ給油のタイミングなどの変動もあり、もう少し長期的な評価が必要と思われる。実績はよくないが、全体として着実な状況である。

4. グリーン購入

1月～6月におけるグリーン購入の比率は62.25%と目標の50%を越えている。昨年は年間で61.91%であった。グリーン購入は定着しているが、購入金額が少ないために変動が大きい。購入品目は事務用品が主体であるが、購入金額は月額1.3万円程度であり、月間で60%強の比率で推移している。環境配慮の考え方は引き続き、購買面で確実に定着している。

5. 入荷・出荷・在庫状況

1月～6月の入荷量は1,743t/月で、昨年実績の1,903t/月を大きく下回っている。一方、出荷量は、1月～6月平均で1,908t/月（昨年：2,096t）となっている。大幅に、在庫を減らして出荷する形（数字上は）となっている。今年は全体として、入荷も出荷も昨年より10%くらいの減少である。処理量のレベルは最大時（3,000t/月）に比べると65%位の操業状況にある。置場の整理が進み、置場の整理は安全作業にもつながるが、入荷／出荷が例年と同様に、数値的にはバランスしていない。

6. 用紙の使用

用紙の使用状況は、1月～6月では5,071枚/月で、昨年実績平均（5,667枚）より10%ほど減少している。A4の使用が増加しており、入出荷の減少とつながっているようにも考えられる。今年度はB5／B4の使用はない。

2024年 運用管理の進捗状況（3）

（2024/7月 — 2024/9月）

1. 電力使用量

7月～9月の月間電力使用量は 14,026 kwh ～ 14,536 kwh で、平均すると 14,287kwh であり、昨年度 1年間実績平均の 14,416kwh から減少している。入荷／出荷は全体として、前年平均より大きく減少している。月間変動もあり、出荷量は7月～9月について、前年比 2,096t → 1,658t と△21%の減少である。当社の設備処理量の最大は 3,000t であり、この3か月は6割5分程度の業務量となっている。電力の年間平均原単位は昨年の 6.879→ 7.791kwh/t（出荷量）[1月～9月]とかなり悪くなっている。

2. 重機燃料比

出荷量平均は、前年の 2,096t に比べて（1月～6月）1,908t と△9% 減少している。場内作業重機の燃料比は 1月～6月で前年の 2.243 → 2.336 L/t（出荷量）と若干悪化している。入荷／出荷ともに変動が大きい傾向は収まりつつあり、処理量の減少、燃料供給先の変更などの変動要因も収まっている。また、燃料使用量は給油のタイミング、請求のタイミングで数値に変動がでている。場内作業の効率化の問題もあり、今後も作業量が減少の予想で、効率的な作業が望ましい。

3. 輸送燃料比

輸送燃料比は 1月～9月が 2.935 L/t で、昨年の 2.598L/t に比べて悪化している。外部委託の変動と、遠方の顧客への輸送の変化などが影響している。ただ給油のタイミングなどの変動もあり、輸送量の減少などがあり、もう少し長期的な評価が必要と思われる。実績はよくないが、全体として着実な状況である。

4. グリーン購入

1月～9月におけるグリーン購入の比率は 71.15 % と目標の 50%を越えている。昨年は年間で 63.35%であった。グリーン購入は定着しているが、購入金額が少ないために変動が大きい。購入品目は事務用品が主体であるが、購入金額は月額 1.2 万円程度であり、月間で 60%強 の比率で推移している。環境配慮の考え方は引き続き、購買面で確実に定着している。

5. 入荷・出荷・在庫状況

1月～9月の入荷量は 1,708 t/月で、昨年実績の 1,903 t/月を大きく下回っている。一方、出荷量は、1月～9月平均で 1,825 t/月（昨年：2,096 t）となっている。大幅に、在庫を減らして出荷する形（数字上は）となっている。今年は全体として、入荷も出荷も昨年より 10%くらいの減少である。処理量のレベルは最大時（3,000t/月）に比べると 60%位の操業状況にある。置場の整理が進み、置場の整理は安全作業にもつながるが、入荷／出荷が例年と同様に、数字的にはバランスしていない。

6. 用紙の使用

用紙の使用状況は、1月～9月では 4,944 枚/月で、昨年実績平均（5,667 枚）より 10%ほど減少している。A 4の使用が増加しており、入出荷の減少とつながっているようにも考えられる。今年度は B 5 / B 4の使用はない。

2024 年 運用管理の進捗状況（4）

（2024/10 月 — 2024/12 月）

1. 電力使用量

10 月～12 月の月間電力使用量は 14,038 kwh ～ 16,962 kwh で、平均すると 15,127kwh であり、昨年度 1 年間実績平均の 14,416kwh から増加している。入荷／出荷は全体として、前年平均より大きく減少している。月間変動もあり、出荷量は 10 月～12 月について、前年比 2,096t → 1,833t と Δ13%の減少である。当社の設備処理量の最大は 3,000t であり、この 3 か月は 6 割程度の業務量となっている。電力の年間平均原単位は昨年の 6.879→ 7.906kwh/t（出荷量）[1 月～12 月]とかなり悪くなっている。

2. 重機燃料比

出荷量平均は、前年の 2,096t に比べて（1 月～12 月）1,827t と Δ13% 減少している。場内作業重機の燃料比は 1 月～12 月で前年の 2.243 → 2.430 L/t（出荷量）と若干悪化している。入荷／出荷ともに変動が大きい傾向は収まりつつあり、処理量の減少、燃料供給先の変更などの変動要因も収まっている。また、燃料使用量は給油のタイミング、請求のタイミングで数値に変動がでている。場内作業の効率化の問題もあり、今後も作業量が減少の予想で、効率的な作業が望ましい。

3. 輸送燃料比

輸送燃料比は 1 月～12 月が 2.885 L/t で、昨年の 2.598L/t に比べて悪化している。外部委託の変動と、遠方の顧客への輸送の変化などが影響している。ただ給油のタイミングなどの変動や、輸送量の減少などがあり、もう少し長期的な評価が必要と思われる。実績はよくないが、全体として着実な状況である。

4. グリーン購入

1 月～12 月におけるグリーン購入の比率は 70.89 % と維持目標の 45%を越えている。昨年は年間で 63.35%であった。グリーン購入は定着しているが、購入金額が少ないために変動が大きい。購入品目は事務用品が主体であるが、購入金額は月額 1.1 万円程度であり、月間で 60%強 の比率で推移している。環境配慮の考え方は引き続き、購買面で確実に定着している。

5. 入荷・出荷・在庫状況

1 月～12 月の入荷量は 1,725 t/月で、昨年実績の 1,903 t/月を大きく下回っている。一方、出荷量は、1 月～12 月平均で 1,827 t/月（昨年：2,096 t）となっている。大幅に、在庫を減らして出荷する形（数字上は）となっている。今年は全体として、入荷も出荷も昨年より 10%くらいの減少である。処理量のレベルは最大時（3,000t/月）に比べると 60%位の操業状況にある。置場の整理が進み、置場の整理は安全作業にもつながるが、入荷／出荷が例年と同様に、数字的にはバランスしていない。

6. 用紙の使用

用紙の使用状況は、1 月～12 月では 4,958 枚/月で、昨年実績平均（5,667 枚）より 10%ほど減少している。A 4 の使用が増加しており、入出荷の減少とつながっているようにも考えられる。今年度は B 5 / B 4 の使用はない。

2. 太陽光発電（カーボンオフセット）について

当社は、従来からグリーン購入を進めており、リサイクル品、事務用品などで再生品の購入を進めている。電力についてはグリーン電力の購入を実施していた。

2015年度からは本社工場の屋根に太陽光発電設備（20kwh）を設置し、発電を実施している。再生エネルギーの獲得としてはわずかであるが（現状は全量売却している）、使用電力については、グリーン電力の購入（カーボンオフセット）に代替する形をとっている。さらに、本社工場以外において、積極的に太陽光発電への投資を行い、現在 11カ所（本社工場を含めて）で実績を得ている。

当社の電力の年間使用量は、2024年度では 173,332kwh、に対して、太陽光発電量は 16,694kwh であり、 $16,694 / 173,32 \times 100\% = 9.6\%$ 程度の電力を獲得（グリーン化）している。

更に、本社工場以外の場所で、太陽光発電システム（メガソーラー）に対応（参画）しており、千葉県、栃木県、福島県、茨城県などで全体として 11カ所のソーラー発電を実施、投資している。全体の発電量は 2023年度で 156 万 kwh、2024年度で概略：138 万 kwh のレベルにある。従って、本社工場での使用電力量の約 8 倍の再生エネルギー発電を実施している。

（資料 1：2022 年度／2024 年度（株）カネテツ関連の太陽光発電量）

（株）カネテツに関連する太陽光発電設備（規模）一覧

1	栃木・都賀発電所	49.5kwh	7	福島・滝尻発電所	44.0kwh
2	福島・中島発電所	49.5kwh	8	栃木・閑馬発電所	49.6kwh
3	千葉・真里谷発電所	49.5kwh	9	東京・本社発電所	20.0kwh
4	福島・下桶売発電所	49.5kwh	10	茨城・古河 MA 発電所	500kwh
5	福島・南台 B 発電所	49.5kwh	11	福島・作鞍発電所	49.5kwh
7	福島・南台 C 発電所	38.5kwh		合計	(899.5kwh)

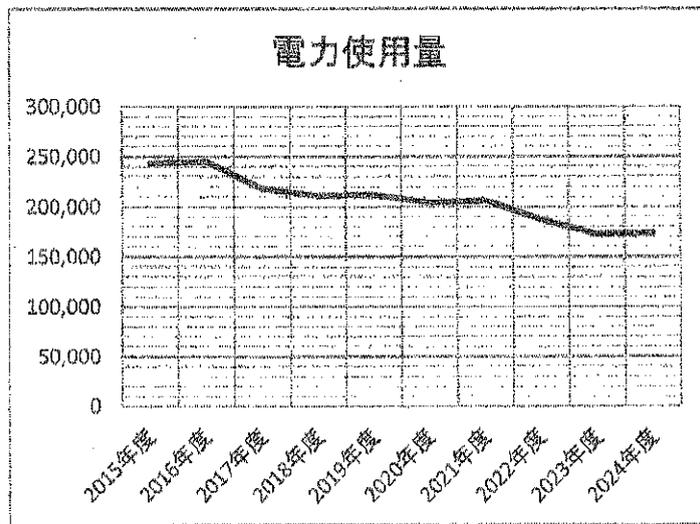
資料1 2022年度～2024年度 (株)カネテツ関連の太陽光発電量

	発電所名 (場所)	2022年発電量	2023年発電量	2024年発電量
1	福島中島 (中島村)	74,602	74,407	69,089
2	福島上原 (いわき市)	83,094	83,168	79,537
3	福島下桶売 (いわき市)	90,824	98,409	89,126
4	福島南台二丁目C (いわき市)	63,154	65,239	60,147
5	千葉真里谷 (木更津市)	67,054	86,348	68,951
6	栃木都賀 (栃木市)	86,358	89,290	80,422
7	福島南台二丁目B (いわき市)	96,010	102,439	96,704
8	福島作鞍 (いわき市)	90,082	95,206	91,554
9	栃木閑馬 (佐野市)	84,256	98,482	83,497
10	カネテツ本社	17,519	14,913	16,694
11	古河メタルリサイクル (古河市)	641,890	759,366	603,505
	合計	1,394,845	1,567,267	1,378,758
		kwh	kwh	kwh

3. 省資源、省エネルギーへの取組み

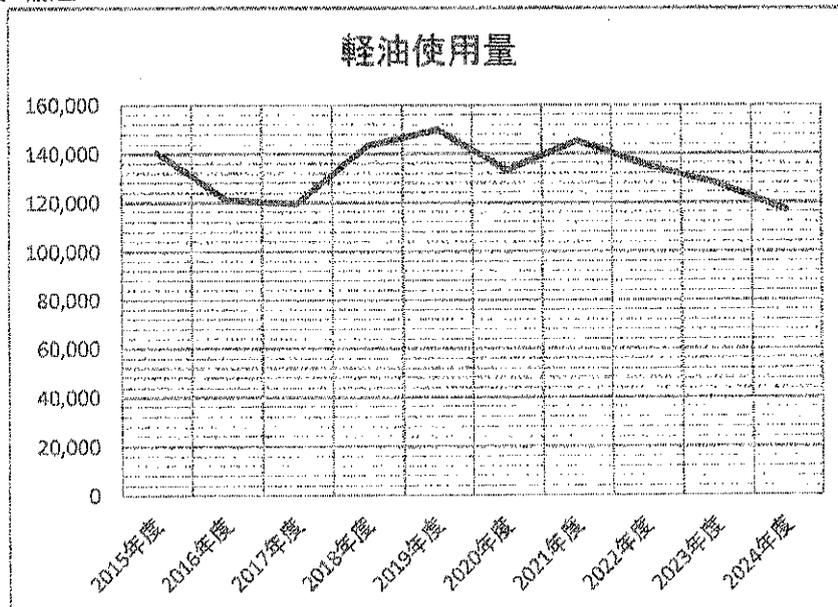
	電力使用量	前年比
2015年度	243,048	8.00%
2016年度	245,310	0.90%
2017年度	218,037	-11.20%
2018年度	211,118	-3.17%
2019年度	211,828	0.34%
2020年度	204,177	-3.60%
2021年度	206,226	1.00%
2022年度	187,482	-9.10%
2023年度	172,992	-7.73%
2024年度	173,332	0.20%

kwh/年



	軽油使用量 重機+輸送
2015年度	140,504
2016年度	121,016
2017年度	119,652
2018年度	143,364
2019年度	149,932
2020年度	133,256
2021年度	145,286
2022年度	135,353
2023年度	127,725
2024年度	116,809

L/年

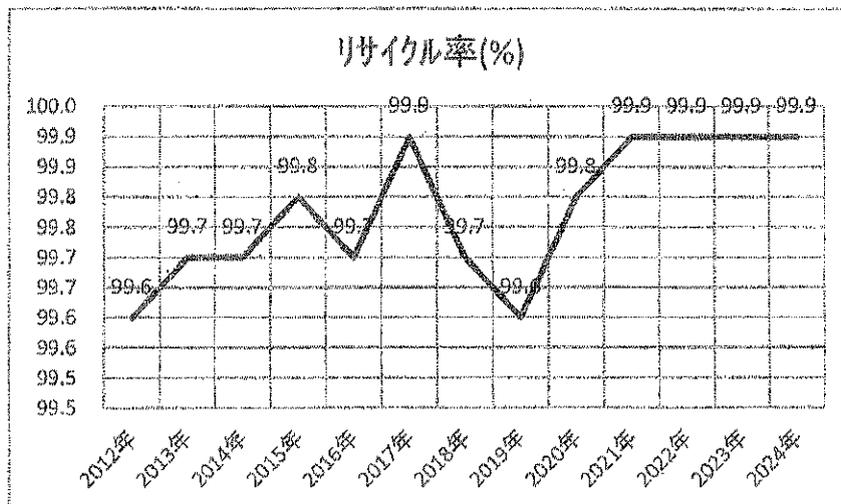


- ・電力使用管理手順書
 - ・車両運行管理手順書
 - ・ユンボ/フォーク運転手順書
 - ・キロチンヤ-運転手順書
 - ・各プレス運転手順書、など
- により、省資源、省エネルギーを心掛けて作業を実施している
- ・2018年度にユンボを省エネ型、低騒音型に更新(1台)
 - ・2021年度～2022年度にGTL燃料を一時的に使用。

4. リサイクル率の推移

	受入量	リサイクル量	最終処分量	リサイクル率
2012	31,209	31,072	137	99.6
2013	28,932	28,836	96	99.7
2014	27,789	27,714	75	99.7
2015	30,194	20,123	71	99.8
2016	29,930	29,854	76	99.7
2017	28,058	28,025	33	99.9
2018	28,488	28,429	50	99.7
2019	28,545	28,417	127	99.6
2020	26,129	26,091	38	99.8
2021	27,017	26,998	19	99.9
2022	24,512	24,491	19	99.9
2023	22,652	22,639	13	99.9
2024	20,535	20,530	5	99.9

年	リサイクル率(%)
2012年	99.6
2013年	99.7
2014年	99.7
2015年	99.8
2016年	99.7
2017年	99.9
2018年	99.7
2019年	99.6
2020年	99.8
2021年	99.9
2022年	99.9
2023年	99.9
2024年	99.9



- ・2011年度から廃プラスチックをRDF化のリサイクルへ変更
- ・2021年度から紙くずを製紙原料として売却
- ・2021年度から木くずをRDF原料として売却
- ・最終処分量が減少しており、2021～2024年度はリサイクル率は99.9%を達成

5. 騒音関係、清掃活動 など

2024年 測定値

1月	51.0	デシベル
2月	60.8	
3月	62.4	
4月	57.3	
5月	52.3	
6月	59.8	
7月	63.5	
8月	59.7	
9月	52.4	
10月	53.0	
11月	60.4	
12月	57.5	
平均	57.5	デシベル

騒音測定は事務所の台貫操作場所で行う。月1回。

規制値は昼間で <60.0デシベル以下であり、2024年の平均値は57.5デシベルで、2023年平均の58.1デシベルより若干低い。4回ほど60デシベルを越えている場合があった。道路騒音が含まれている可能性がある。

事業場周囲、周辺道路などの清掃は日常的に実施している。

また、足立区から「清掃美化活動実施団体認定証」をいただき、日頃から「美しく」、「安全な」まちとする活動を継続している。

周辺の方々への配慮を含めて、金属有価物保管場所に覆い（屋根型テント形式）（2022年10月完成）を設置しており、更に2023年10月には東側に塀を（6m高さ）を設置し、防塵、跳ね出しへの対応を強化している。

6. LCA

(1) 当社の LCA の考え方

当社の LCA は金属系廃棄物（有価物）の入手～顧客への出荷までのプロセスを明確にして、関連するプロセスでのインベントリーを確認（環境負荷を算出）し、総合的に環境影響評価を行うものである。

環境影響評価の結果（LCA）は、環境報告書に記載して公表する。

当社の業務は、金属系産業廃棄物を 受入 → 選別 → 切断・溶断（解体）→ プレス（圧縮）→ 秤量 → 出荷 のプロセスが主要なものであり、この全体について LCA を行う。

(2) 業務（プロセス）の整理

当社の主要なプロセスは図表 1 に示すとおりであり、全体的な設備規模としては、約 3,000t/月 の受入が可能であるが、ここ数年は 2,200 t～2,500 t/月の受入量（=出荷量）となっている。

(3) 2023 年度のインベントリー（環境負荷の算出）

当社の業務（LC）に関連する 2023 年度の数値（インベントリー）は図表 2 に示すとおりである。

(4) 環境影響評価

a) 大気への影響

- ・大気汚染につながる排気ガスは、重機（ユンボ）及びトラックからの SO_x 及び NO_x は軽油燃料（NO_x はエンジン型式にも）に由来する。燃料中の SO_x は 0.001% 以下になっている。NO_x の排出は規制値以下である。
- ・フロン排出抑制法の関連
事務所における空調は家庭用を使用しており、漏洩はない。
重機に搭載の空調は日常点検を実施しており、漏洩はない。

b) 水質系への影響

- ・当社内の排水は事務所の日常的な排水を含めて公共下水道に排出されている。
- ・粉じん抑制の場内散水は大気中で蒸発するものと、地上に滞留するものがある。工場内の排水は雨水を含めて 2 か所のグリーストラップを経由して公共下水道に接続している。
- ・水質系への環境影響はほとんどない。

c)騒音及び振動の影響

- ・騒音及び振動は、重機（ユンボ）の移動、作業（金属系廃棄物＝有価物のハンドリング）、ギロチンシヤー、ワンコロプレス、及び金属プレスの運転に伴い発生する。振動については重機からの重量物の落下が想定されるが、この1年間では該当事項はない。設備からの振動の影響はほとんどない。
- ・騒音は、重機の移動、作業音であり、事務所での騒音測定は2023年：58.1デシベル、2024年：57.5デシベルであり、規制値：<60デシベルより低い値で対応している。（騒音は外部の自動車騒音を拾っている可能性がある）。

d)エネルギー消費の影響

- ・電力の消費は、本社・工場（圧縮、破碎等の作業）全体で2024年では173千kwh／年であり、CO₂排出＝84.6t／年に相当する。
- ・工場内作業用重機の燃料及び金属系廃棄物の搬入／有価物出荷輸送用の燃料は軽油を使用している。2024年度の両者の燃料使用量の合計は、116千L／年であり、消費に伴うCO₂排出＝2.619kg/L × 116千L＝303.8t／年に相当する。
- ・従って、電力消費＋燃料消費＝388.4t／年の温暖化ガス（CO₂）を排出している。
- ・作業用重機（ユンボ）として、2023年には2台の重機を低騒音・低振動・省エネルギー型に更新して省エネルギーに対応している。
- ・金属系廃棄物の搬入に際しては、持ち込みの分があり、この件に関する燃料の使用量は現時点では考慮していない。

(5) 環境影響の解釈

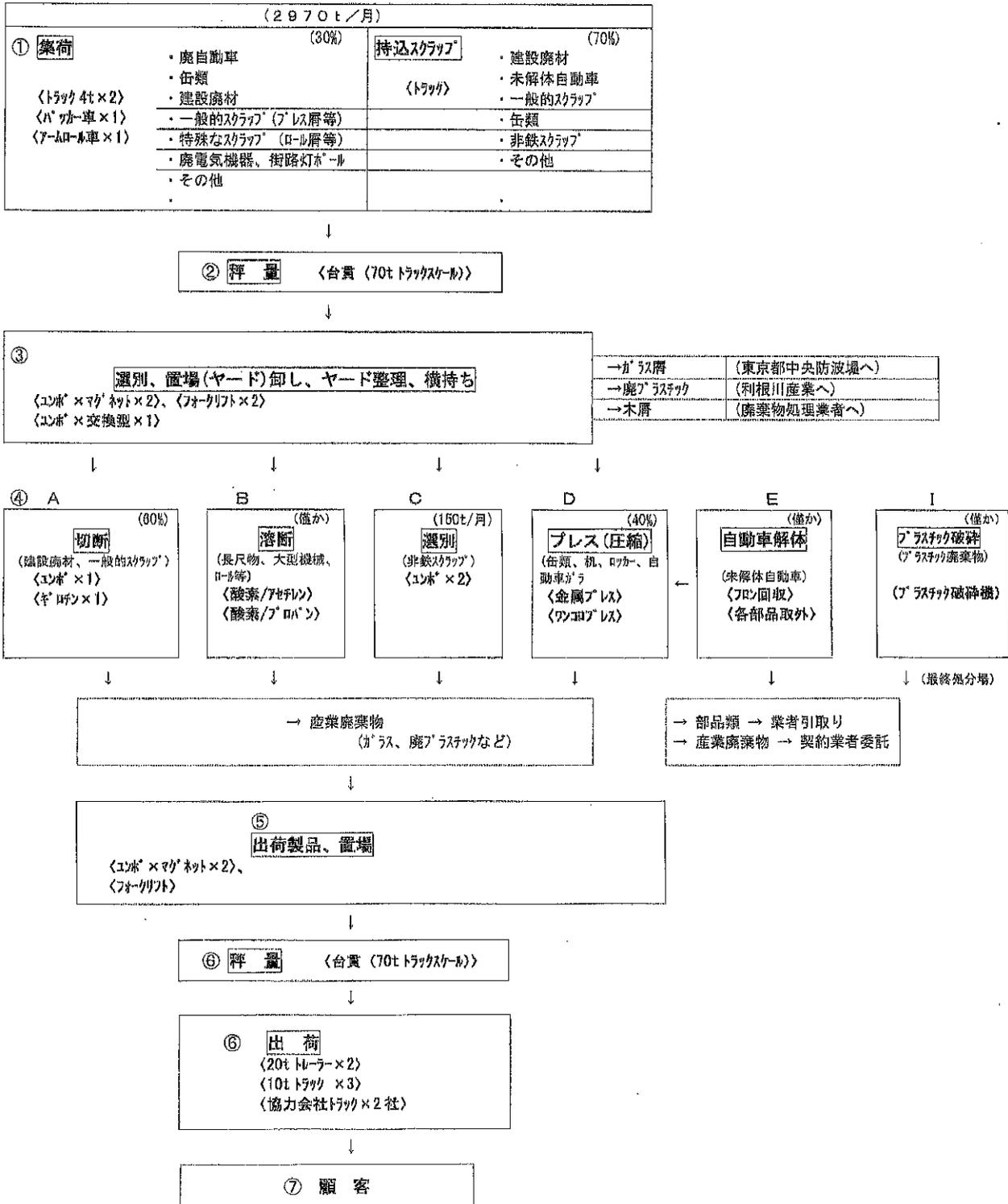
大気汚染、水質汚濁、騒音及び振動などの典型的な公害に関する当社の周囲の方々への影響は少ない。エネルギーの消費はCO₂の発生による地球温暖化の影響をもっており、当社の外部への環境影響としては、一番大きいものと解釈される。

・カーボンフットプリント(CFP)

2024年度の出荷量（金属有価物）は20,535 t／年であり、出荷t当たりのCFPは $CFP = 388.4 \text{ t} \div 20,535 \text{ t} = 18.9 \text{ kg/t}$ となる。

業務フロー（金属廃棄物の受入～顧客への出荷）

・金属系廃棄物の受入



・顧客への出荷

LCAのインベントリ（関連する数値）

・入荷～出荷

		2024/1～2024/12	
①	産業廃棄物	20,535 t	
②	秤量	20,535 t	
③	選別	産業廃棄物の選別	金属くず：20,526 t
			ガラスくず：1.5 t
			紙くず：1.5 t
			木くず：2.9 t
			小計：9.4 t
④A	切断	金属くずの処理	18,024 t
④D	圧縮（プレス）	〃	2,502 t
⑤	出荷製品置場	20,535 t	
⑥	秤量、出荷	20,535 t	
⑦	顧客へ	20,535 t	

はリサイクル処理へ

・エネルギー、ユーティリティなど

	電力	173,332 kWh/年	
	輸送用燃料 （軽油）	63,273 L/年	
	工場重機燃料 （軽油）	55,536 L/年	
	水	80 m3/年	工場内の散水、生活用水
	太陽光発電	1,378,758 kWh/年	((株) カネテツグループ全体)

7. CO₂の削減目標と計画

当社は、2025年7月に“東京都地球温暖化防止活動推進センター”の“省エネルギー診断”を受けており、省エネルギー（CO₂削減）の提案を得ている。この中から実現性の高い2項目を取り上げ、2026年度のCO₂の削減目標を設定して、実施計画を進めている。

	改善項目（計画）	CO ₂ 削減率（目標）
1	高効率空調設備（EHP）の導入（設備更新）	△ 0.5 %
2	高効率照明設備（LED）の導入（設備更新）	△ 2.5 %
		合計：△ 3.0 %

当社の2024年～2025年度の1年間のCO₂排出量（電力、燃料、上下水道の使用などによる）は、86.8tであり、2026年度は△ 3.0 %（2.6tのCO₂に該当）の削減目標とし、空調設備の更新及び照明設備のLED化を計画している。

8. カーボンフリー電力の使用

当社の本社工場では、レジル (REZIL) 株式会社と契約し、当社の使用場所における電力契約は、非化石証書の使用によりカーボンフリー100%の電力を供給されております。

環境メニュー電力供給証明書

以下使用場所における電力契約は、非化石証書の使用により、
実質的にカーボンフリー100%の電力を供給する
契約であることを証明します。

企業名 : 株式会社カネテツ
環境メニュー : カーボンフリー
供給事業者 : レジル株式会社
供給地点特定番号 : 03-1011-2000-7219-0511-0909
使用場所名 : 株式会社カネテツ
使用場所住所 : 東京都足立区入谷9丁目5-10



当社は、2021年10月にTCFD（気候変動関連財務情報開示タスクフォース）提言への賛同を表明しています。
また、カーボンニュートラルに向けた社会構造変革のための価値提供を目指すGXリーグに参画しています。
※本書面の発行についてTCFDおよびGXリーグは関与していません